

都道府県医師会
感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長
釜 菫 敏

令和 5 年度動物由来感染症対策技術研修会における質問とその回答について

今般、厚生労働省より本会に対し、標記の情報提供がありました。

本研修会の資料及び動画については、下記の Web ページよりご参照ください。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただき、郡市区医師会及び関係医療機関に対する周知方、ご高配のほどお願い申し上げます。

記

厚生労働省 HP (研修資料掲載 URL) :

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00406.html

YouTube (研修動画掲載 URL) :

(1) SFTS 等の最新の動物由来感染症の発生状況について

国立感染症研究所獣医科学部部長 前田健

<https://www.youtube.com/watch?v=4D9Tw7owg50>

(2) オズウイルス感染症の発生について

茨城県衛生研究所ウイルス部主任 大澤修一

<https://www.youtube.com/watch?v=l2PHfhKqi0I>

(3) 蚊媒介感染症の最新の状況について

国立感染症研究所昆虫医科学部部長 葛西真治

<https://www.youtube.com/watch?v=0SPA26znqWA>

(4) 検疫所における蚊媒介感染症対策について

成田空港検疫所衛生課課長 新妻淳

https://www.youtube.com/watch?v=M2_I6rQ22oU

(5) 鳥インフルエンザウイルスの野生動物における感染状況と今後のリスクについて

国立環境研究所生物多様性領域生態リスク評価・対策研究室主幹研究員 大沼学

<https://www.youtube.com/watch?v=mutURi-sK8k>

(6) ワンヘルス推進に向けた徳島県の取組について

徳島県危機管理環境部消費者くらし安全局安全衛生課主任 鎌田拓郎

<https://www.youtube.com/watch?v=PzG1P7RDYWA>

※YouTube 動画は自治体・関係機関に限定公開

担当 : 厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課動物由来感染症指導係 清水

電話 : 03-5253-1111 (内線 4655)

e-mail : animal@mhlw.go.jp

事 務 連 絡
令和 5 年 12 月 18 日

公益社団法人日本医師会 御中

厚生労働省健康・生活衛生局
感染症対策部感染症対策課

令和 5 年度動物由来感染症対策技術研修会における質問とその回答について

平素より、動物由来感染症対策に御協力いただきありがとうございます。
標記研修会において、皆様よりいただいた質問とその回答については、後日共有を
することとしておりました。
今般、別紙のとおり、質問及び回答を取りまとめましたので共有いたします。

【問い合わせ先】

担当：動物由来感染症指導係（清水）

TEL：03-5253-1111（内線）4655

E-mail：animal@mhlw.go.jp

「SFTS 等の最新の動物由来感染症の発生状況について」

(国立感染症研究所獣医科学部 部長 前田 健)

【質問 1】

SFTS 等のダニ媒介感染症の患者数が増加している原因について

- ①なぜ媒介ダニが東進しているのですか。
- ②媒介ダニの東進以外にも原因はありますか。ある場合、考えられる原因は何ですか。

【回答 1】

- ① マダニは動物について徐々に移動します。SFTS の流行地は西日本であることから、ウイルス保有マダニが徐々に西日本から東へと拡大していると考えています。また、健常でもウイルス血症になっている野生動物が多いことから、それらの野生動物の移動に伴い、媒介マダニも徐々に広がっていると考えています。
- ② マダニを増加させる吸血源となる野生動物の増加・東進・北上が大きな要因と考えます。これには、地球温暖化、狩猟者の減少等の様々な要因が関わっています。野生動物が増加すれば、吸血して増殖するマダニも比例するように増加します。マダニが増加することにより、マダニ媒介感染症も増えると考えています。

【質問2】

スライド3枚目で SFTS 感受性宿主の多くが不顕性感染となっています。配布資料ではその下の発症率は「不明」となっていますが、動画では「ほぼ 100%」となっていたと思います。この数値はネコについてのことでしょうか。その後の説明では、ネコで発症率は高く、イヌで低いということでしたが、ヒトの場合はどうでしょうか。不顕性感染が多いのでしょうか。もしくはヒトもほぼ 100%発症するのでしょうか。

【回答2】

ヒトでの発症率に関する報告はほとんどありません。ただ、健常人の血液を用いた大規模調査でもほとんど抗体保有感染者はいないとのこと。そのため、多くのヒトは感染し、発症していると考えています。しかし、発症率に関してははっきりしていないためスライドでは不明とさせていただきました。

ネコでもヒトと同じような状況で、発症率は分かっていません。しかし、流行地でも抗体陽性のネコはイヌよりも少ないため、ネコは発症し、重篤な症状を示し多くが死亡している（致死率 60-70%）と考えています。イヌは、逆に軽症で発症していない例も多いと考えています。

ヒト、ネコ、イヌとも発症率は明らかになっていません。致死率は順に 27%、60-70%、40%です。

【質問3】

国内で家畜を対象にした SFTS の調査報告はありますか。

【回答3】

幾つか報告があります。下記にそのうちの一報を紹介します。国内の家畜の陽性率は非常に低いです。

Tabara K, Fujita H, Hirata A, Hayasaka D. Investigation of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus Antibody among Domestic Bovines Transported to Slaughterhouse in Shimane Prefecture, Japan. *Jpn J Infect Dis.* 2016 Sep 21;69(5):445-7. doi: 10.7883/yoken.JJID.2015.624. Epub 2016 May 9. PMID: 27169939.

「蚊媒介感染症の最新の状況について」

(国立感染症研究所昆虫医科学部 部長 葛西 真治)

【質問1】

デング熱の輸入症例が訪日外国人数と相関するとのことでした。私たちが実際に検査して陽性になる方は、海外旅行から帰国した日本人や、帰省等で一時帰国された在日の外国人の方が多いと思います。持ち込まれたというより、持ち帰ってきたという印象があります。全国的には旅行等で来日する外国人が日本国内で発症するケースの方が多いのでしょうか。

【回答1】

(昆虫医科学部においては) 統計の内容について、輸入症例数の内訳が、海外からのツアー客が多いのか日本から出国した人が多いのかは知ることができません。

ただ、もし輸入症例としてカウントされる方々の中に日本人や日本から出国した外国人が多かったとしても、それは病院で受診される方の率が高かったり、検疫で症状を申告される方が多いからと解釈できるかもしれません。

両グループで感染率に差はあるかもしれませんが、インバウンド(外国旅客者数)に比例して入国者数は増え、感染者の絶対数が増える、つまり国内感染のリスクが増大することは間違いないのではと考えています。